

平成25年度第2回千葉県図書館協議会議事録（要録）

- 1 日 時 平成25年12月17日（火）
午後2時00分から午後4時00分まで
- 2 場 所 千葉県立中央図書館 講堂
- 3 出席者 (委 員) 渡 辺 敦 平 野 恵 子
小 泉 卓 史 齋 藤 一 浩
佐 藤 裕 美 牧 野 千 恵
佐 藤 宗 子 川 西 八 郎
- (生涯学習課) 高 橋 正 名 (社会教育振興室副主幹)
中央図書館長 葉 山 龍次郎
西部図書館長 長谷川 浩 士
東部図書館長 河 野 明 美
他9名
(傍 聴 者) なし

4 議 事

- (1) 平成25年度千葉県立図書館の運営状況について（経過報告）
- (2) 千葉県立図書館の学校支援について
- (3) その他の主な取組等について

会議開会宣言の後、図書館協議会会議運営規則第6条の規定に基づく会議成立の確認がなされた。

<会議録>

- 議 長 それでは、議事に入らせていただきます。本日、議事3件となっております。
初めに、議事1「平成25年度千葉県立図書館の運営状況について」報告願います。
- 事務局 「平成25年度千葉県立図書館の運営状況について（経過報告）」（資料1）に基づき報告。
- 議 長 ただ今の報告についての御質問、御意見をお願いします。
- 委 員 中央図書館で実施している「親子で楽しむ絵本の会」とありますが、「親子で」とわざわざ入れているところに興味が湧きますが、説明してください。
- 事務局 定例のおはなし会は、5・6歳児の一人でもお話を聞ける子どもたちを対象とし

ており、「親子で楽しむえほんの会」は、やっとお話を聞ける状態になるもっと低年齢の子どもたちとその親を対象としています。手遊びを交えたりして親子で楽しめる内容となっており大変好評を得ています。

委員 たくさんの講座や研修会を開催されているようですが、参加者の人数にばらつきがあるように思われます。広報の仕方など、参加者が増えるような工夫についてはどのように考えますか。

事務局 講座の内容や対象によって参加人数は変わってくるように思いますが、広報については、ホームページに掲載して周知を図ったり、その対象が集まるような会合に出掛けて参加を呼び掛けたりしています。足りない点については、反省材料として検討しなくてはいけません、広報について何をもって十分とするかは難しいところです。参加人数が少ないからといって開催に意味がない訳ではなく、スキルを身につけていただくことが大事なのであって、知識を広げていただくことに意味があるという点では、これからも3館で努力をしていきたいと考えます。

委員 私自身も、参加人数が少ないからといって、その研修が意味がないと思っている訳ではなく続けていただきたいと思っています。以前、中央図書館の立地条件が悪いことで、小さい子どもを連れて方には利用しにくいという話を聞いたことがあります。また、一方で決まった曜日、時間帯の講座だから利用できない方がいるのであれば、時には曜日や時間帯を変えてみることも考えてみるのはどうでしょうか。

参加した方の満足度であればそれなりの結果が出るのだと思いますが、参加できなかった方の声を聞いてみるのも、可能性としては出てくるのだと考えます。

事務局 立地条件は致し方ないのですが、御指摘いただいたとおり開催条件の改善の余地はあるように思いますので、これからも参加人数の増加に向けて努力していきたいと思えます。

委員 半期決算の報告ということですが、数値を見ても進捗が分かりづらいように思いますが、いかがでしょうか。

事務局 資料1は、前年度の上半期と比較したものであるため、平成25年度の進捗状況を説明したものではありませんが、第1回図書館協議会で御説明いたしました計画どおり、概ね順調に進んでおります。

委員 資料1からも前年度と大差はないようですので概ね順調だということは分かりましたが、それでは新たな課題や問題について伺います。

事務局 一つに、広報として、今年度から県立博物館や県立美術館と連携を始めたところですが、博物館や美術館を利用する方に図書館にも興味を持っていただけるような工夫をしていかなければならないと考えます。また、図書館に限らず行政全般に言

えることですが、予算が年々減少傾向にある中で、どのように図書館の施策としてニーズに応じていくのか、そのためにどのような調査を行うのか、そういった問題点も考えられます。

委員 半期を振り返った時に、来年度の事業をどのように進めるのか考える時期に来ているのではないかと思います。今言われた問題点等をどのように活かされるのか何かお考えでしょうか。

事務局 それにつきましては、第1回図書館協議会で「在り方行動計画」について御説明させていただきましたが、現在、ワーキンググループで中間フォローについて取り組んでいるところです。それを受けて平成25年度の包括的な結果と平成26年度の事業計画を、第3回図書館協議会及び平成26年度第1回図書館協議会で御報告させていただく予定です。

委員 個人貸出について、西部、東部図書館がおよそ3千冊ずつ減少していることは、何か理由が考えられるのでしょうか。

事務局 西部図書館は医療、技術を専門分野としておりまして、利用者の8割が男性で半数が高齢者という状況です。予算の関係で新聞、雑誌などの購入冊数が減少しており、苦情が出ていることも事実です。それが明確な理由であるかどうかは分かりませんが、スマートフォンやインターネットの普及で図書館に行かなくても簡単に調べられることも原因なのではないかと考えます。

委員 技術が専門なのであればなおのことですね。

事務局 東部図書館についてですが、文学、歴史を専門分野としておりまして、個人で利用される方にはもっとも人気のある分野です。多い時には年間8万冊の個人貸出冊数がありましたが、図書購入費が少なくなっていることが貸出冊数に影響しております。そうしますと、ベストセラー本や話題性のある小説などは市立図書館が所蔵していますので、県立図書館では限られた予算の中で専門書を充実させていくこととなります。いろいろなテーマ展示を企画しておりますが、残念ながら、なかなか貸出冊数の増加にはつながっておりません。

委員 先程、資料1の説明の中で、予算は減っているが購入冊数が増えているという説明でしたが、それは中央図書館に限ってのことであって東部図書館は違うということでしょうか。それから、前期に多くの本を購入することに何か意味があるのでしょうか。

事務局 ニーズのある本を早めに揃えることは利用者にとっても良いことですし、資料1は前期の数字を比較したものですので、昨年度は後期に電算システムのリプレースがありましたので、前倒しで本を購入したことが関係していると思います。

委員 紙ベースの本に親しんだ世代がこれからどんどん少なくなって、ネットに親しんだ世代がどんどん増えていく状況の中で、図書館としてこれからどんな方向性で将来的に進んで行くのか何か決まっていますか。

事務局 おっしゃるとおり大変大きな問題であります。古文書を電子化してホームページで公開する作業は進めておりますが、電子書籍の対応については進んでいないのが現状です。これからは電子書籍をどう進めるかが課題となるのだと思います。その件につきましては、国立国会図書館や全国の図書館との会議の中で、情報交換をしながら絶えず研究を進めていきます。

委員 小中学校にいる司書教諭や司書の資格を持った国語の教諭は、図書館の指導の対象でしょうか。

事務局 教諭の資格を把握し指導するのは県の指導課になりますが、毎年、定期的に総合教育センターで研修を行っております。

議長 他に質問等はないようですので、議事1を終了します。

事務局 議事2「千葉県立図書館の学校支援について」説明願います。

議長 「学校支援に関するアンケート集計結果について」（資料2）に基づき報告。

委員 ただ今の報告についての御質問、御意見をお願いします。

委員 資料2のセットの構成冊数にばらつきがあり、内容も実用的なものから簡易なレベルものまで複雑なように思います。1つのテーマで比較的簡易なセットから一歩踏み込んだ内容のセット、実用的なセットなどを作るとか、テーマを絞ってセットを増やした方が利用しやすいのではないのでしょうか。また、最低でも1セットにつき10冊以上の構成の方が良いように思います。

委員 学校はいろいろな生徒がおりますので、いろいろなセットがあった方が良いと言われます。Aセットは易しい、Bセットは中位、Cセットは難しい、というようにセットでレベルを分けたり、学年やレベルに応じて生徒にアドバイスをしやすいようにするのも良いと思います。子どもたちは自分で選びたいという気持ちが強いようで、何回か繰り返すうちにニーズの高いものがわかってきてセットが充実していくように思います。

委員 同じ本が1つのセットに何冊も入っていても良いのではないのでしょうか。最低でも10冊以上はあった方がよいと思います。

議長 セットの内容を見ますと、修学旅行や文化祭と行事関係のセットが多いようですが、目的によって構成冊数を変えるなどしてもよいと思いますので検討していただくということよろしいでしょうか。

事務局 今回いただきました御意見を踏まえ、これからも学校側の意見に耳を傾けながら

改善していきたいと思います。

副議長

質問ではないのですが、高校の現場にいる者として、学校支援のサービスを利用したことがない高校が半数以上という結果にとっても寂しい思いを持ちました。高校には司書教諭が必ずいるのですが、図書室の運営に携わっているケースはほとんどなく実習助手が自分で勉強して管理運営をしており、学校によってかなりの差があります。私自身、高校の図書館部会に属したことで、初めてこのようなセットがあることを知りました。図書館部会の会合でも周知を図っているようですが、興味のあるなしでそのまま終わってしまうのではとても残念に思います。教科に関係なく教員が知る機会を得ることはとても大事なことに思います。高校側でも、より積極的にこのような活動を広げていく雰囲気を作っていきたいと思います。

委員

今回の報告の中で特別支援学校用セットというものがあるようですが、どのような内容のものなののでしょうか。また、どうしても書物は音声か点字になってしまいます。もし、生徒に貸し出すようなセットなのであれば、どのような活用をされているものなのかとても興味を持ったのですが教えてください。

事務局

特別支援学校用セットについては、先生が子どもたちに指導するための本であったり、手芸、栽培、音楽といった授業で使えるような内容になっております。障害の種別に応じての内容にまでは残念ながら達しておりませんが、今回のお話から、御指導をいただきながらそのようなセットを検討してみても良いのではないかと思います。

また、昨年度まで、先生方に知っていただくために校長先生、教頭先生を初め先生方の会合や司書部会に出掛けて周知を図ってまいりましたが、やはり現場の先生方に知っていただきたいという思いから、今年度より6年研修、10年研修などの研修会にも出向いてPRをしております。これからも、一層の周知のため努力してまいりたいと思っています。

委員

225校の配付数で161校の回収ですが、回答した学校の種別ですとか傾向などお分かりでしたら教えてください。

事務局

回答の傾向ということですが、集計をしていて特に気になった点はありませんでした。

委員

お話を伺っていて大変素晴らしい事業だと思ったのですが、私の現場では、図書室に入った時点で、目を引くようにとにかく並べて選ばせる体制をとっています。せっかくのセットですから、手間や日数がかかっても、レベルもジャンルも関係ない、関連する本を可能な数だけリストにしたり並べたり、実際に目で選んだセットならば幅が広がって、もっと利用が増えると思うのです。

議 長 アイディアの工夫の仕方に一考いただくということで検討していただきたいと
思います。他に、資料2につきまして御意見、御要望はございますか。ないよう
でしたら、資料3「県立西部図書館における特別支援学校への読書支援について」報
告願います。

事務局 「県立西部図書館における特別支援学校への読書支援について」（資料3）に基
づき報告。

委 員 特別支援学校といっても、障害の度合いや小、中、高校と段階があるので、段階
に応じて何が求められているのかを研究していただくのが良いと思いました。

事務局 今まで特別支援学校との交流がなかったので、図書館としては障害者サービスの
実績を活かして図書館の機能を理解していただきたいと思います。障害や発達の度
合いに応じてどのような本を選んだらよいかは学校側も疑問に感じているよう
ですので、図書館と学校で連携しながら研究してまいりたいと思います。

議 長 続きまして、議事3「その他の主な取組等について」説明願います。

事務局 「千葉県立図書館における東日本大震災及び防災関連資料・情報の収集・提供へ
の取組について」（資料4）に基づき説明。

議 長 資料4につきまして御意見、御質問はございますか。それでは、他に質問等はない
ようですので、その他、事務局から何かありますか。

事務局 中央図書館企画展示「世界遺産 ～富士山から遺産めぐりの旅～」、東部図書館
「来館者300万人達成」について説明。

議 長 ただ今の報告について、御意見、御質問はございますか。
ないようですね。では、せっかくの機会ですので、議事に関係なく御提案、御意
見がありましたら発言をお願いします。

委 員 全体的なことなのですが、電子化については時代には逆らえない、ちょうど過渡
期なのだと思います。そのような中で利用者を支援していくために、きちんとアン
ケートをされ対応をしている図書館の在り方について、基本的にとっても素晴らしい
と思いました。ただ、利用者が減っているのであれば、その減少の内訳をきちんと
把握しないといけないと感じました。

委 員 今回出席させていただいて、自分の子どもの頃を思い返してみましたが、
電子化というのは元は紙ベースのものがあっての電子化なのですよね。小さい頃に
布団の中で読み聞かせてもらった大好きな本は大人になっても覚えているもので、
大きくなって思い出して、紙ベースであればちょっと引っ張り出してみれば現物を
目にすることができるのです。これからの子どもたちはそれができなくなっていく
のですよね。説明の中で、親子での読み聞かせの講座がありましたが、そういった

本の存在を感じることができるような体験に力を入れていただきたいのです。子どもたちに、本のおいやぬくもりを大きくなって思い出してもらえるような育み方ができるといいなと思い、是非、図書館の方々には頑張ってくださいと思います。

事務局

ありがとうございます。紙ベースと電子の情報は、どちらも欠けてはいけないものだと思いますので、どちらもバランスよく、委員の皆様に御指導いただきながら考えて行きたいと思います。

議長

電子化という過渡期にあるということで、様々な御意見、御感想が出ましたが、これを踏まえまして、今後の事業に活かされると良いと思います。

他に質問等ないようですので、以上で終了いたします。議事の進行に御協力いただきありがとうございました。

次回は、平成26年3月中旬に開催することを確認し、以上で平成25年度第2回千葉県図書館協議会を終了した。